

岡山県感染症週報 2015 年 第 2 週 (1 月 5 日～1 月 11 日)

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令しました。(1 月 15 日)

◆2015 年 第 2 週 (1/5～1/11) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 1 週 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (90 代 女)

第 2 週 2 類感染症 結核 3 名 (20 代 女 1 名、70 代 男 1 名、90 代 女 1 名)

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 3611 名 (定点あたり 20.56 → 42.99 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で 453 名 (定点あたり 8.24 → 8.39 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 103 名 (定点あたり 0.52 → 1.91 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。

【第 3 週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 102 施設でありました。(1 月 13 日～14 日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 3611 名 (定点あたり 20.56 → 42.99 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。岡山県は、12 月 11 日に「インフルエンザ注意報」を発令し注意喚起を図ってきたところですが、県全体の定点あたり報告数が警報発令基準の 30.00 人を上まわり、今後も患者増加の可能性があることから、『インフルエンザ警報』を発令し (1 月 15 日発令)、さらなる注意喚起を図ることとしました。
地域別では、倉敷市 (51.31 → 68.81 人)、備中地域 (23.50 → 44.92 人)、岡山市 (20.00 → 38.64 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、全ての地域で大きく増加しました。発生レベル 3 の地域は、倉敷市に加えて、新たに備中地域、岡山市、美作地域 (37.80 人)、備前地域 (34.47 人)、真庭地域 (33.33 人) となりました。備北地域 (21.00 人) は、発生レベル 2 となっています。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 453 名 (定点あたり 8.24 → 8.39 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。依然として多くの患者が報告されています。地域別では、真庭地域 (12.50 人)、美作地域 (10.17 人)、倉敷市 (9.45 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「**感染性胃腸炎週報**」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 103 名 (定点あたり 0.52 → 1.91 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して、最も多くなっています。地域別では、岡山市 (3.79 人)、倉敷市 (2.73 人)、美作地域 (1.17 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (イチゴのように赤くブツブツしている舌) がみられることがあります。就学前から学童期の小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

◆インフルエンザは流行期に入っています。

【予 防】

- * 外出後は手洗いをしましょう。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度 (50～60%) を保ちましょう。

【かかったかな?という時には】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 ・ 前週からの推移：
:2 倍以上の減少 :1.1～2 倍未満の減少
:1.1～2 倍未満の増加 :2 倍以上の増加

・ 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

インフルエンザ週報 2015 年 第 2 週 (1 月 5 日 ~ 1 月 11 日)

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令しました。(1 月 15 日)

➤ 岡山県の流行状況

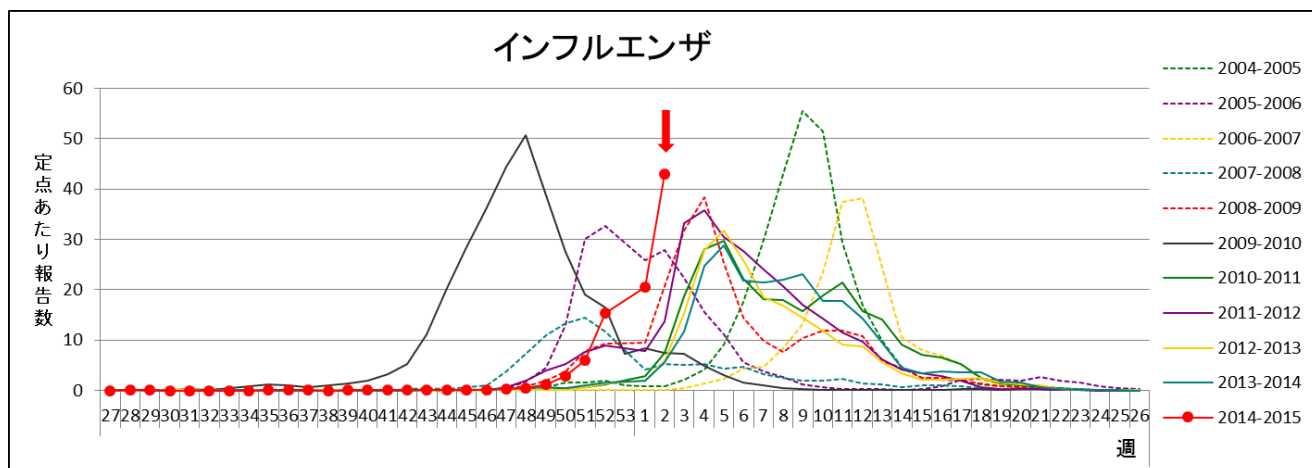
○インフルエンザは、県全体で 3611 名（定点あたり 20.56 → 42.99 人）の発生があり、前週より大きく増加しました。

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は 2 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者 14 名の報告がありました。

【第 3 週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 102 施設でありました（1 月 13 日～14 日）。



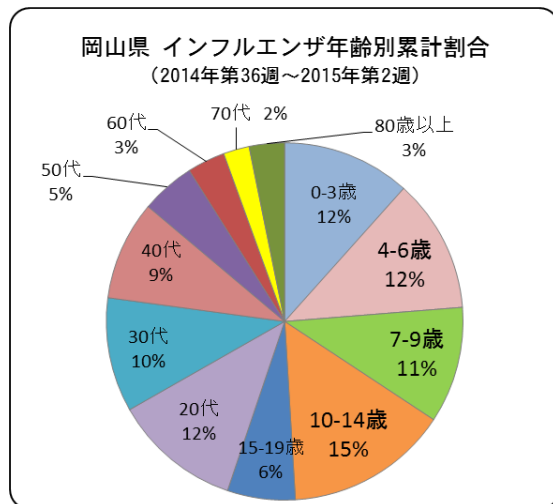
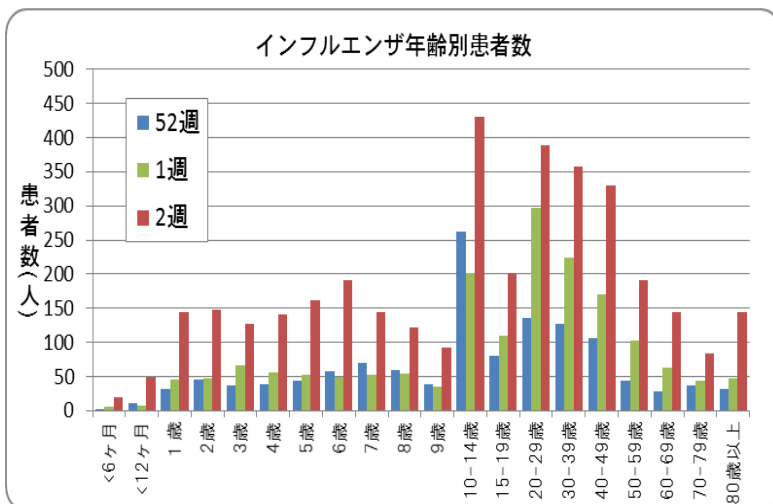
インフルエンザは、県全体で 3611 名（定点あたり 20.56 → 42.99 人）の報告があり、前週より大きく増加しました（84 定点医療機関報告）。県全体の定点あたり報告数が、警報発令基準の 30.00 人を上まわり、今後も流行が継続する可能性があることから、岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し（1 月 15 日発令）、一層の注意喚起を図ることとしました。

地域別では、倉敷市（51.31 → 68.81 人）、備中地域（23.50 → 44.92 人）、岡山市（20.00 → 38.64 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全ての地域で大きく増加しました。発生レベル3 の地域は、倉敷市に加えて、新たに備中地域、岡山市、美作地域（37.80 人）、備前地域（34.47 人）、真庭地域（33.33 人）となりました。備北地域（21.00 人）は、発生レベル2 となっています。

新学期の始まりとともに、第 3 週（1/12～）には、学校等の臨時休業が多数報告されており、今後も患者の増加が懸念されます。『外出後や食事の手洗いを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

1. 年齢別発生状況

年齢別患者数は、全ての年齢層で大きく増加しています。



2. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	3611	▲	備 中	患者数	539	▲
	定点あたり	42.99			定点あたり	44.92	
岡山市	患者数	850	▲	備 北	患者数	126	▲
	定点あたり	38.64			定点あたり	21.00	
倉敷市	患者数	1101	▲	真 庭	患者数	100	▲
	定点あたり	68.81			定点あたり	33.33	
備 前	患者数	517	▲	美 作	患者数	378	▲
	定点あたり	34.47			定点あたり	37.80	

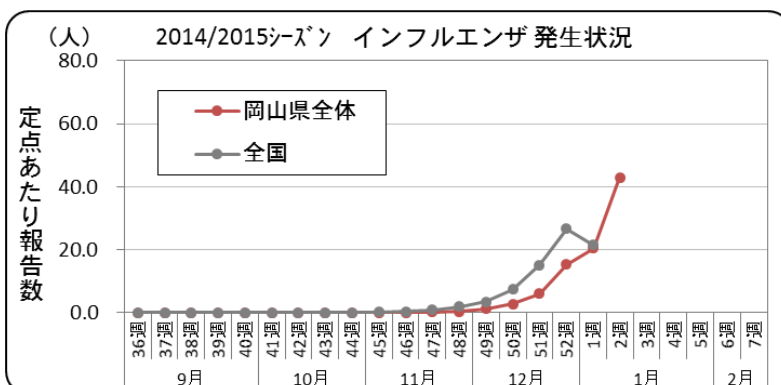
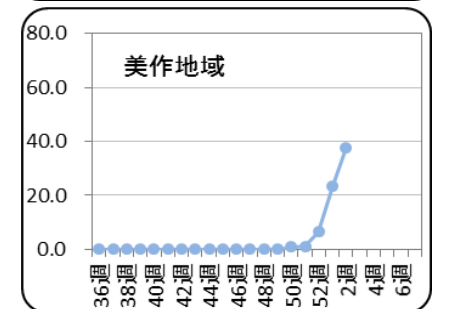
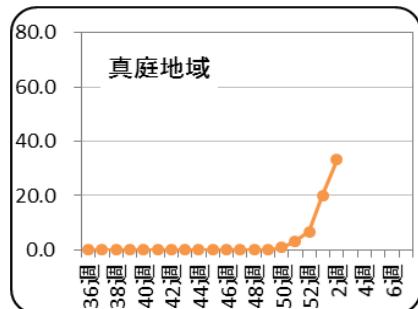
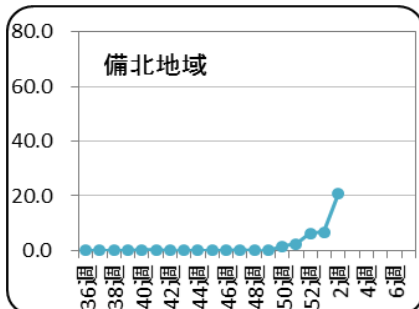
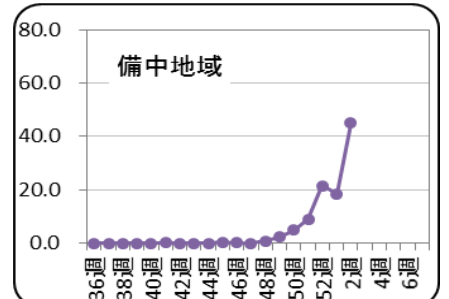
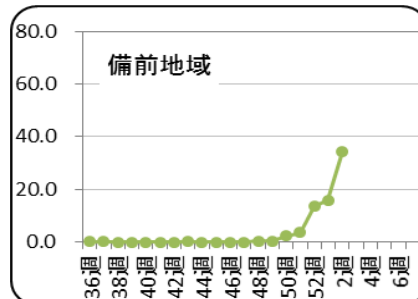
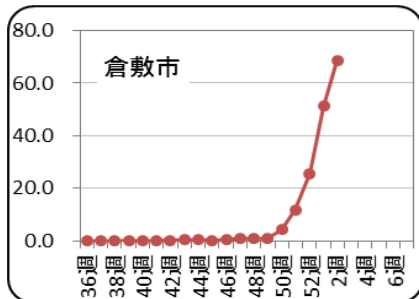
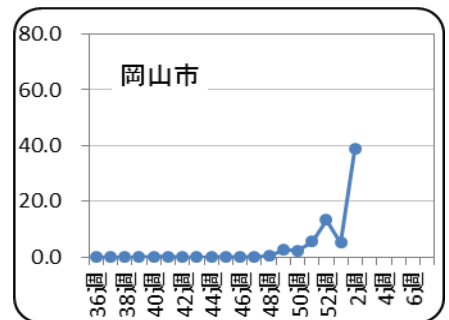
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0



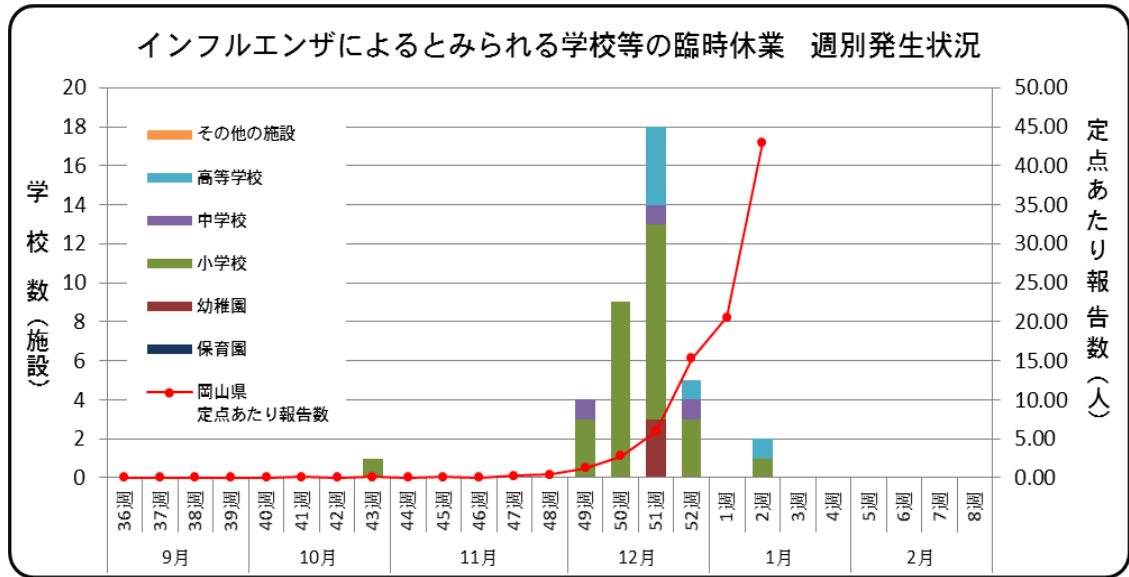
全国集計第1週（12/29～1/4）によると、全国の定点あたり報告数は21.46人であり、第43週以降増加が続いていましたが、約2か月半ぶりに減少しました。都道府県別では、沖縄県（48.74人）、福岡県（44.24人）、滋賀県（44.04人）の順で定点あたり報告数が多くなりました。24県で前週の報告数よりも増加がみられましたが、23都道府県では減少がみられました。

3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。

【第2週 臨時休業施設数】

▽岡山市 1 ▽備前市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	46	696	26	529	2	40	0	1	2	9	0	28	H26.10.21
岡山市	19	204	12	156	1	11	—	—	1	2	0	9	H26.12. 1
倉敷市	0	231	0	182	0	10	0	1	0	2	0	7	H26.10.21
備前地域	27	48	14	34	1	3	—	—	1	2	0	1	H26.12.9
備中地域	0	193	0	145	0	14	—	—	0	3	0	11	H26.12.8
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	0	20	0	12	0	2	—	—	0	2	—	—	H26.12.16
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第2週：2施設

累計：40施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	3	1	28	0	3	1	6	—	—

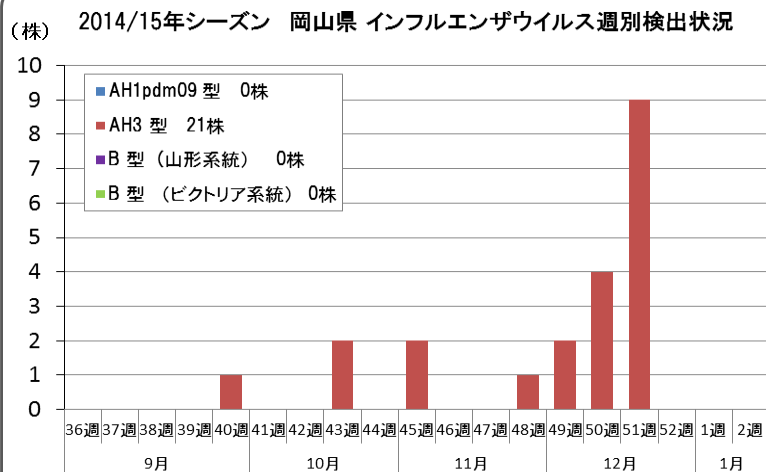
4. インフルエンザウイルス検出状況

第2週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が21株（100%）となっています。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 1150株（96.4%）、B型 27株（2.3%）、AH1pdm09型 12株（1.0%）、A型亜型不明 3株（0.3%）でした。

（2015年1月15日現在）

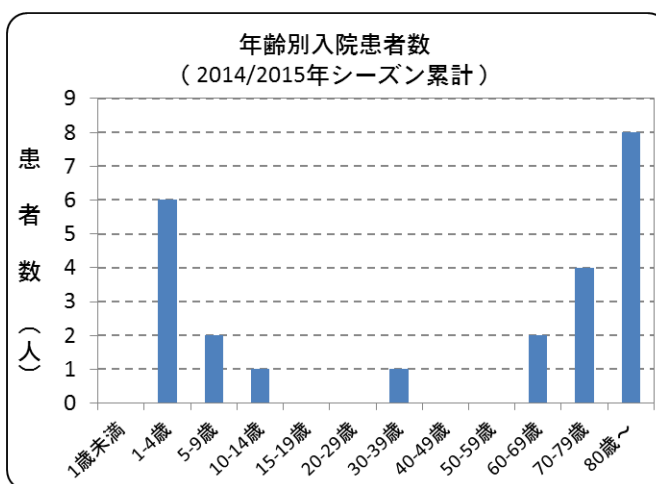
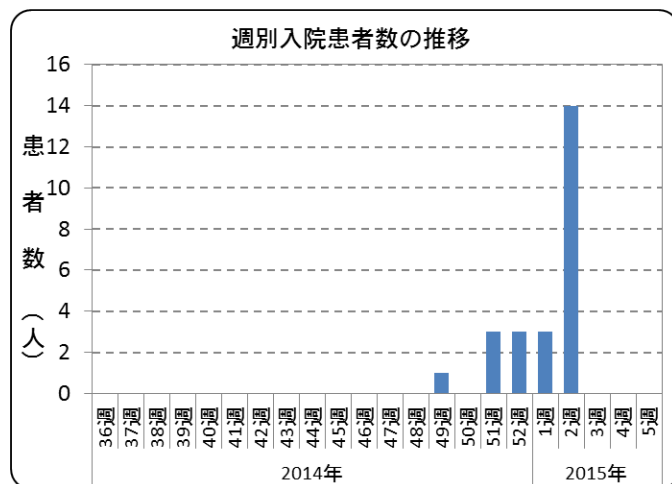
[（インフルエンザウイルス分離・検出速報
（国立感染症研究所））](#)



5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、14名（1～4歳 4名、5～9歳 1名、30～39歳 1名、60～69歳 1名、70～79歳 2名、80歳以上 5名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第2週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		4	1				1			1	2	5	14
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)		1									2		3
頭部MRI検査(予定含)		1									2		3
脳波検査(予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず		3	1				1			1		5	11

* 重複あり

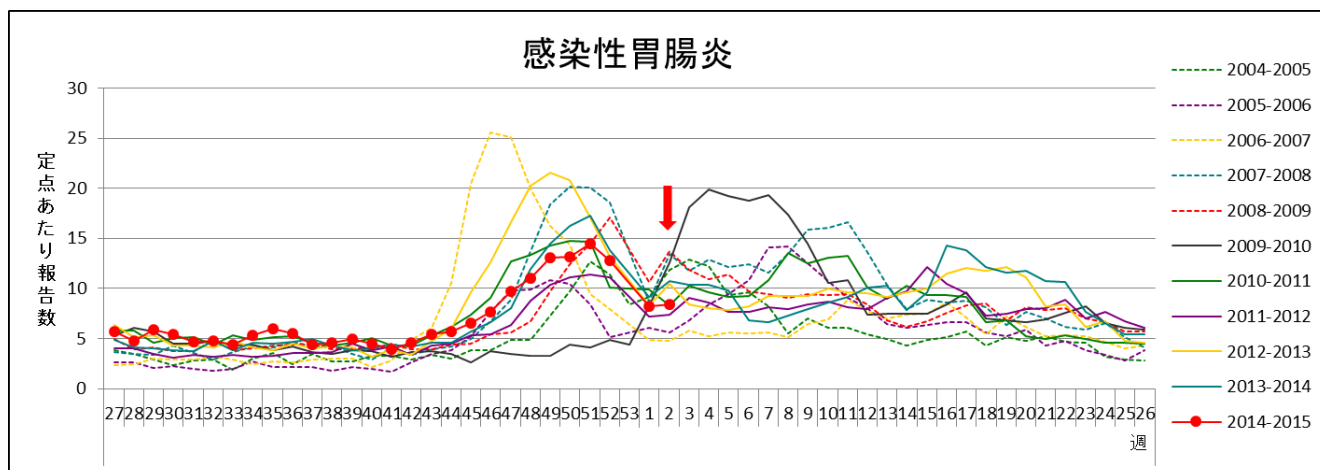
【2014 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳 未満	1～4 歳	5～9 歳	10～ 14 歳	15～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	計 *
入院患者数		6	2	1			1			2	4	8	24
ICU 入室											1		1
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)		1								1	2		4
頭部 MRI 検査(予定含)		1									2		3
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず		5	2	1			1			1	1	8	19

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2015年 第2週 (1月5日～1月11日)

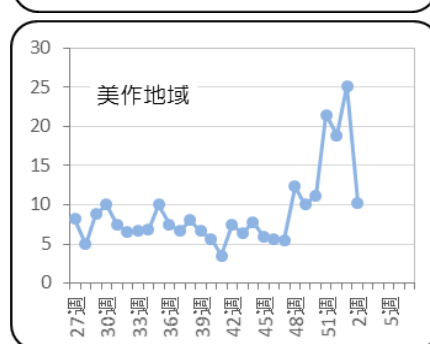
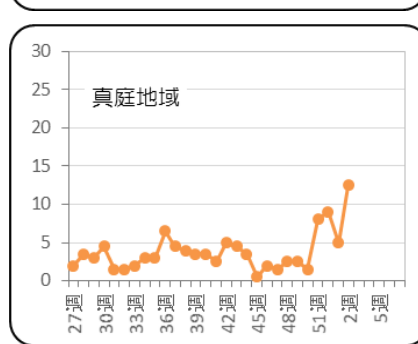
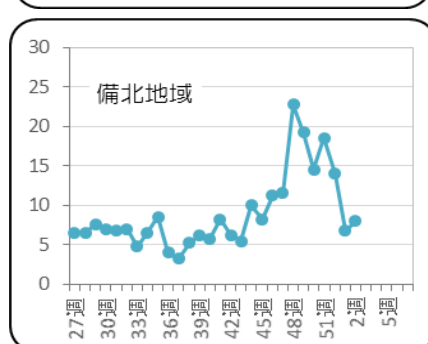
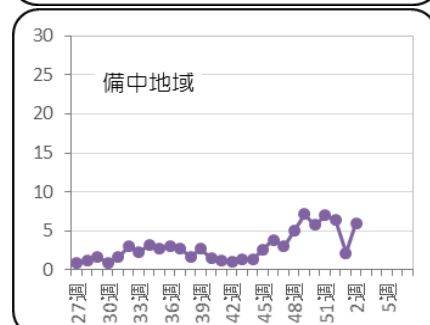
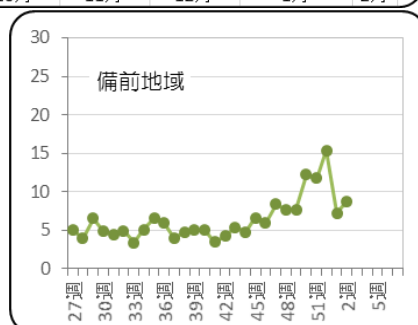
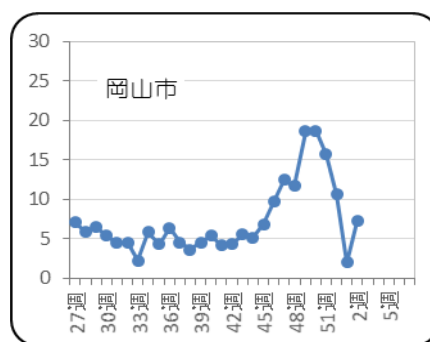
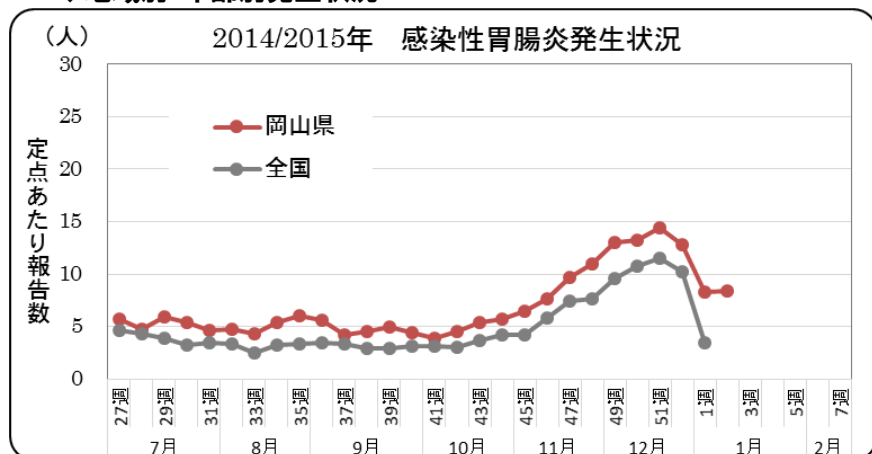
○感染性胃腸炎は、県全体で453名（定点あたり8.24 → 8.39人）の発生がありました（54定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

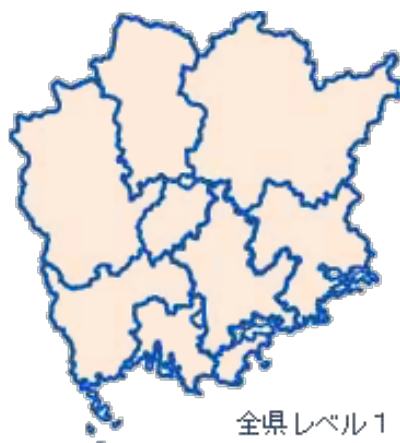
感染性胃腸炎は、県全体で453名（定点あたり8.24 → 8.39人）の発生があり、前週とほぼ同数でした。依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、真庭地域（12.50 人）、美作地域（10.17 人）、倉敷市（9.45 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、岡山市（2.00 → 7.21 人）、備中地域（2.14 → 6.00 人）、真庭地域（5.00 → 12.50 人）では、報告数が前週より大きく増加しました。年齢別累計では、5 歳以下の乳幼児が全体の 61% を占めています。

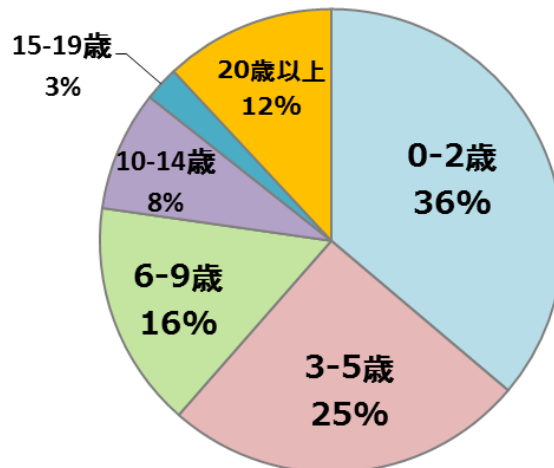
感染性胃腸炎感染症マップ 2015年 2週



レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 < 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

感染性胃腸炎 年齢別累計割合 (2014年第27週～2015年第2週)



ノロウイルスに感染しないためには

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、嘔吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。

3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を 85～90℃で 90 秒間以上）

[ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省ホームページ）](#)

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県ホームページ生活衛生課）](#)

保健所別報告患者数 2015年 2週 (2015/01/05～2015/01/11)

2015年1月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3611	42.99	850	38.64	1101	68.81	517	34.47	539	44.92	126	21.00	100	33.33	378	37.80
RSウイルス感染症	45	0.83	17	1.21	18	1.64	2	0.20	5	0.71	3	0.75	—	—	—	—
咽頭結膜熱	6	0.11	—	—	3	0.27	—	—	—	—	1	0.25	—	—	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	103	1.91	53	3.79	30	2.73	4	0.40	6	0.86	3	0.75	—	—	7	1.17
感染性胃腸炎	453	8.39	101	7.21	104	9.45	88	8.80	42	6.00	32	8.00	25	12.50	61	10.17
水痘	78	1.44	32	2.29	6	0.55	14	1.40	6	0.86	6	1.50	2	1.00	12	2.00
手足口病	8	0.15	4	0.29	2	0.18	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	24	0.44	12	0.86	6	0.55	1	0.10	2	0.29	1	0.25	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	11	0.20	5	0.36	1	0.09	4	0.40	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2015年 2週

(2015/01/05～2015/01/11)

2015年1月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3611	42.99	850	38.64	1101	68.81	517	34.47	539	44.92	126	21.00	100	33.33	378	37.80
咽頭結膜熱	6	0.11	—	—	3	0.27	—	—	—	—	1	0.25	—	—	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	103	1.91	53	3.79	30	2.73	4	0.40	6	0.86	3	0.75	—	—	7	1.17
感染性胃腸炎	453	8.39	101	7.21	104	9.45	88	8.80	42	6.00	32	8.00	25	12.50	61	10.17
水痘	78	1.44	32	2.29	6	0.55	14	1.40	6	0.86	6	1.50	2	1.00	12	2.00
手足口病	8	0.15	4	0.29	2	0.18	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	11	0.20	5	0.36	1	0.09	4	0.40	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—					—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	3	0.75	—	—	—	—					—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第2週 2015/01/05～2015/01/11)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	3611	19	49	145	148	127	140	161	191	145	122	92	430	201	389	358	330	191	144	84	145

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	45	14	14	10	2	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	-	-	1	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	103	-	4	5	9	5	7	13	15	11	10	7	11	2	4
感染性胃腸炎	453	4	42	60	41	30	33	24	23	23	12	15	39	17	90
水痘	78	-	2	7	10	17	10	12	7	5	3	1	4	-	-
手足口病	8	-	-	1	-	-	4	-	2	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	24	2	9	8	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	11	-	-	-	1	-	1	3	2	3	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	-	-	-

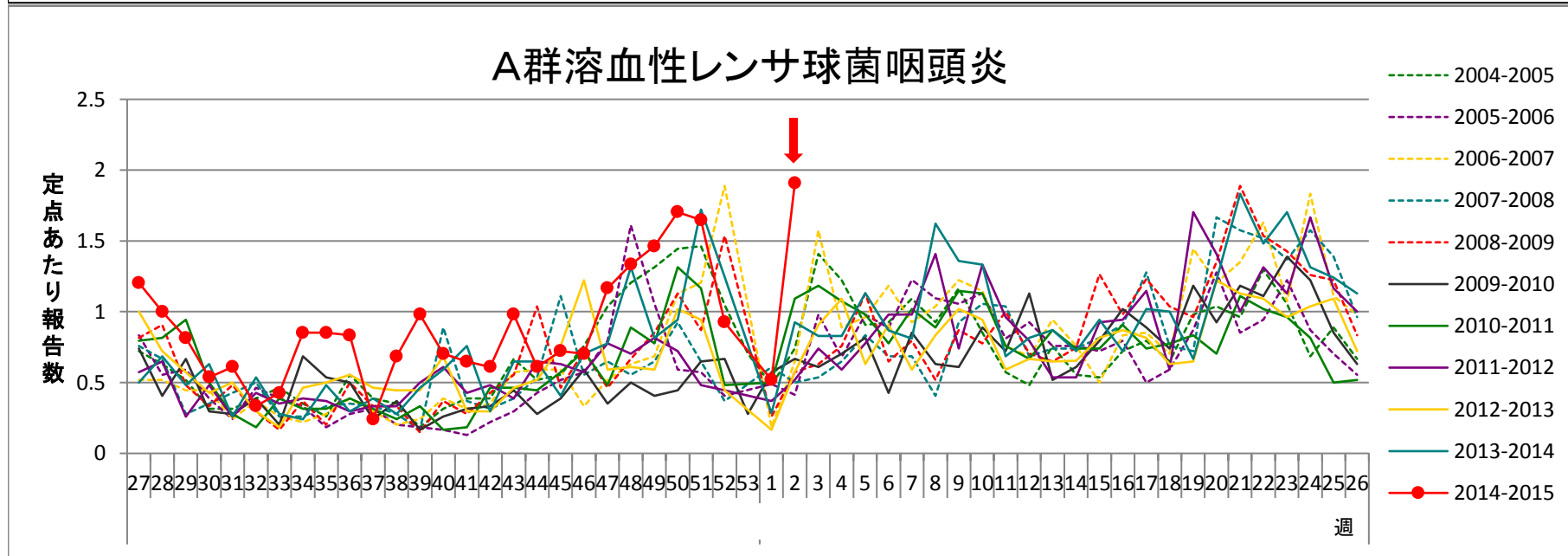
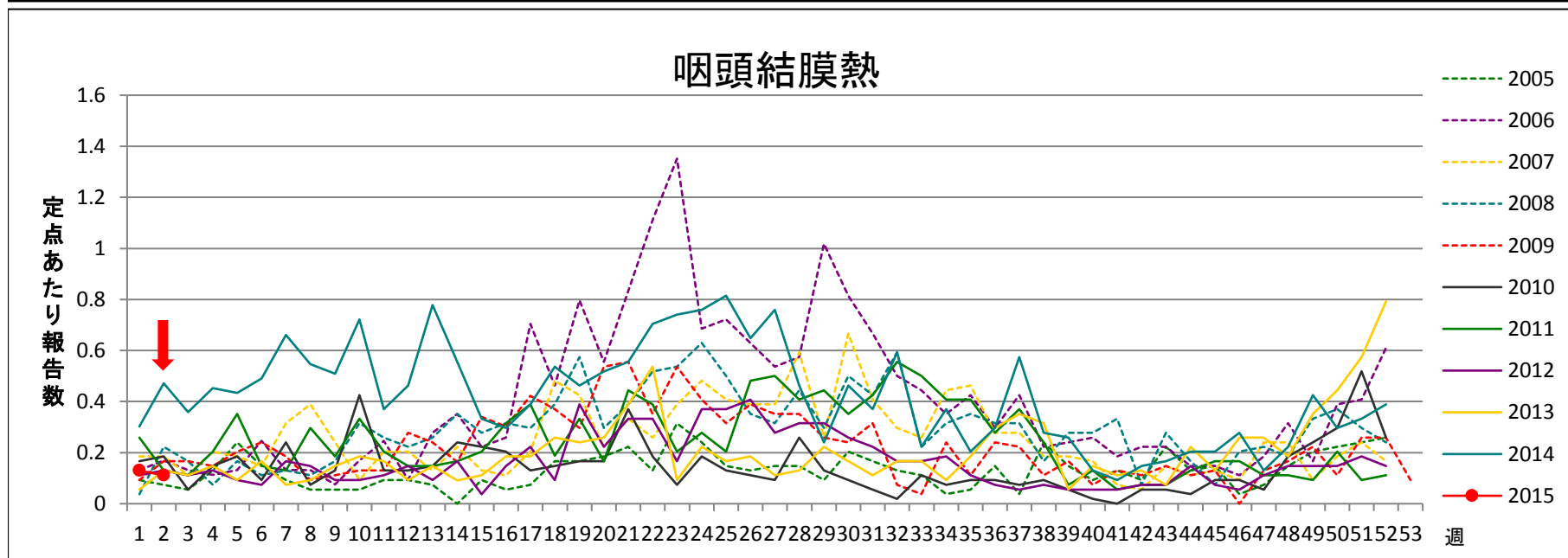
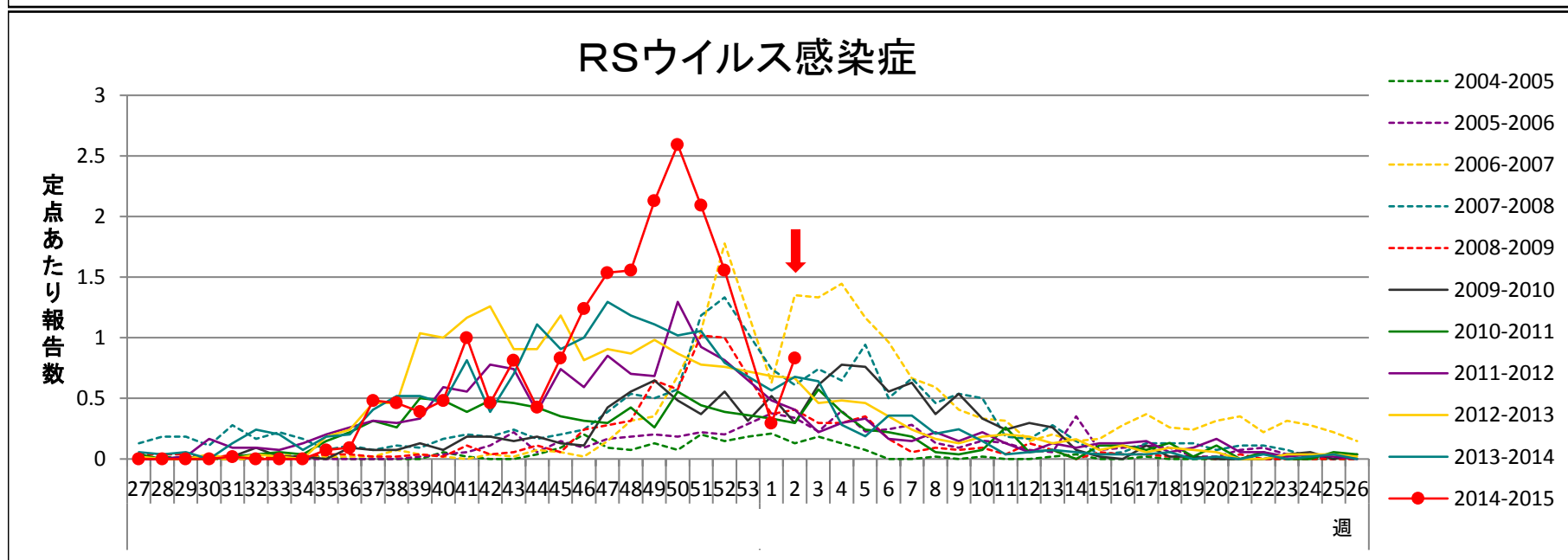
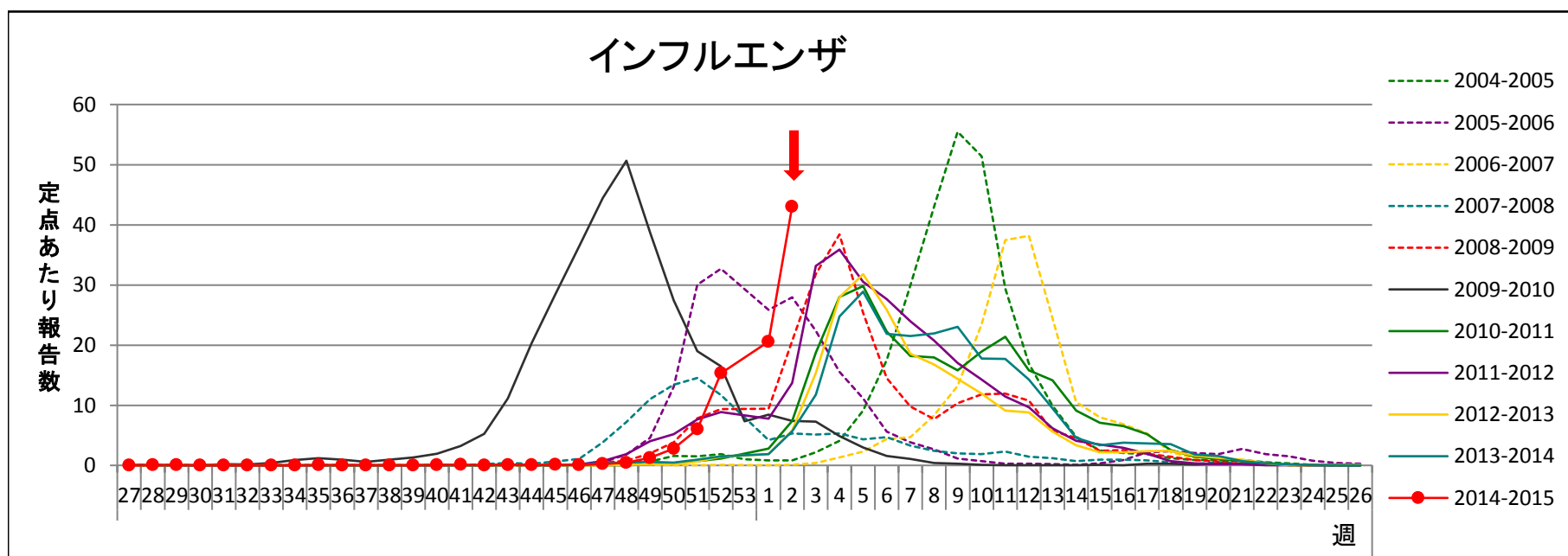
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

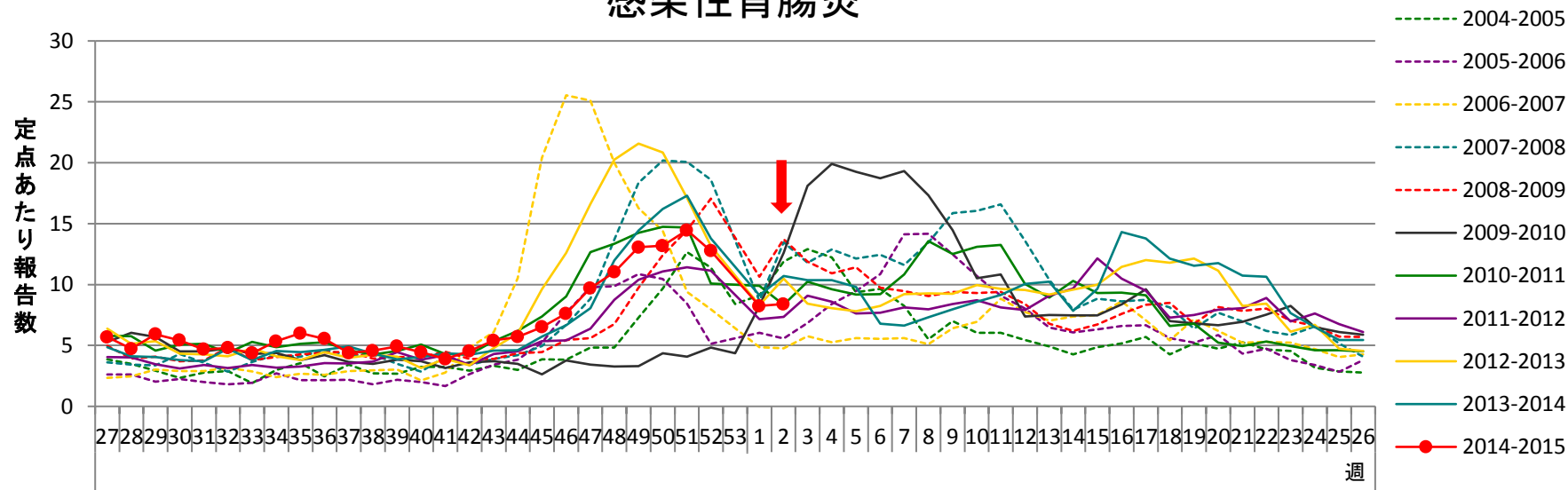
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 2 週

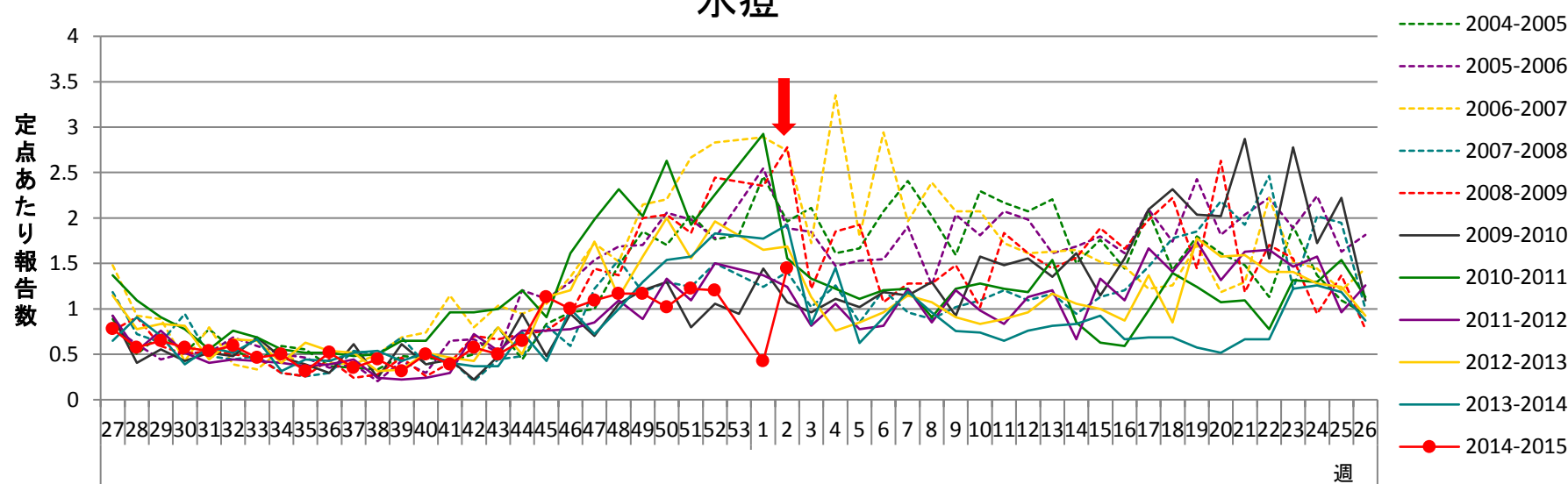
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	6	369	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	－	70
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	－	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	－	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	1	31	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	－	12	ウイルス性肝炎*3	－	－	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	－	12
	急性脳炎*4	－	－	9	クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	－	3	後天性免疫不全症候群	－	－	20	ジアルジア症	－	－	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	－	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	1	26
	水痘(入院例に限る。)	－	－	5	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	－	20
	播種性クリプトкокクス症	－	－	－	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



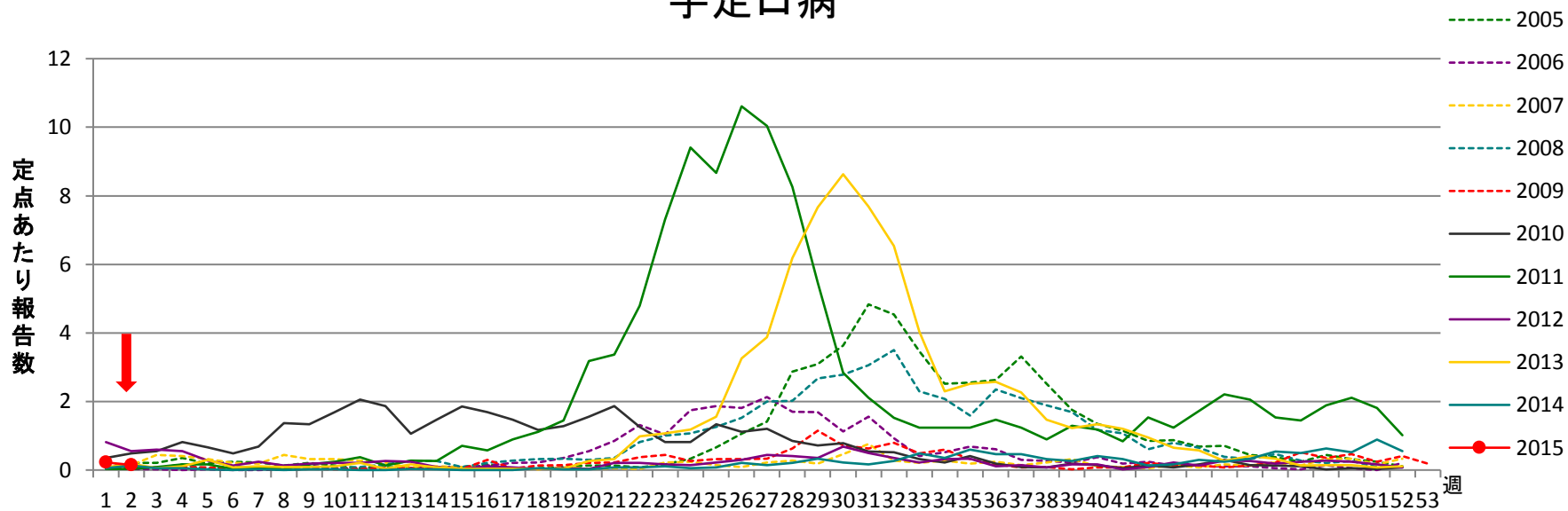
感染性胃腸炎



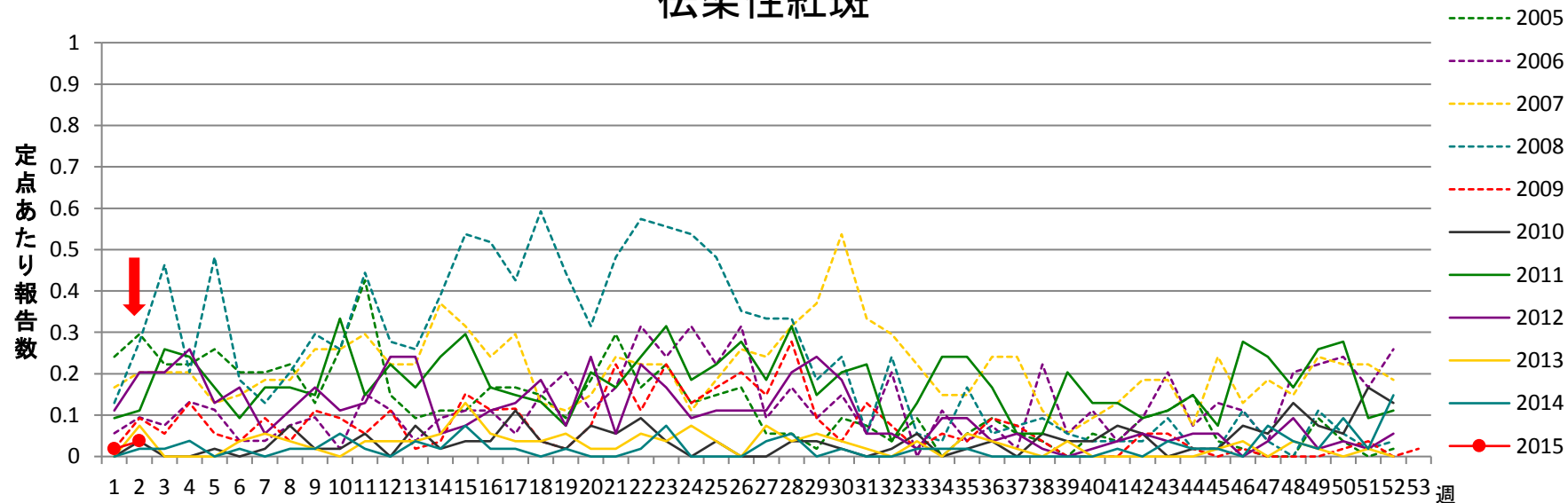
水痘



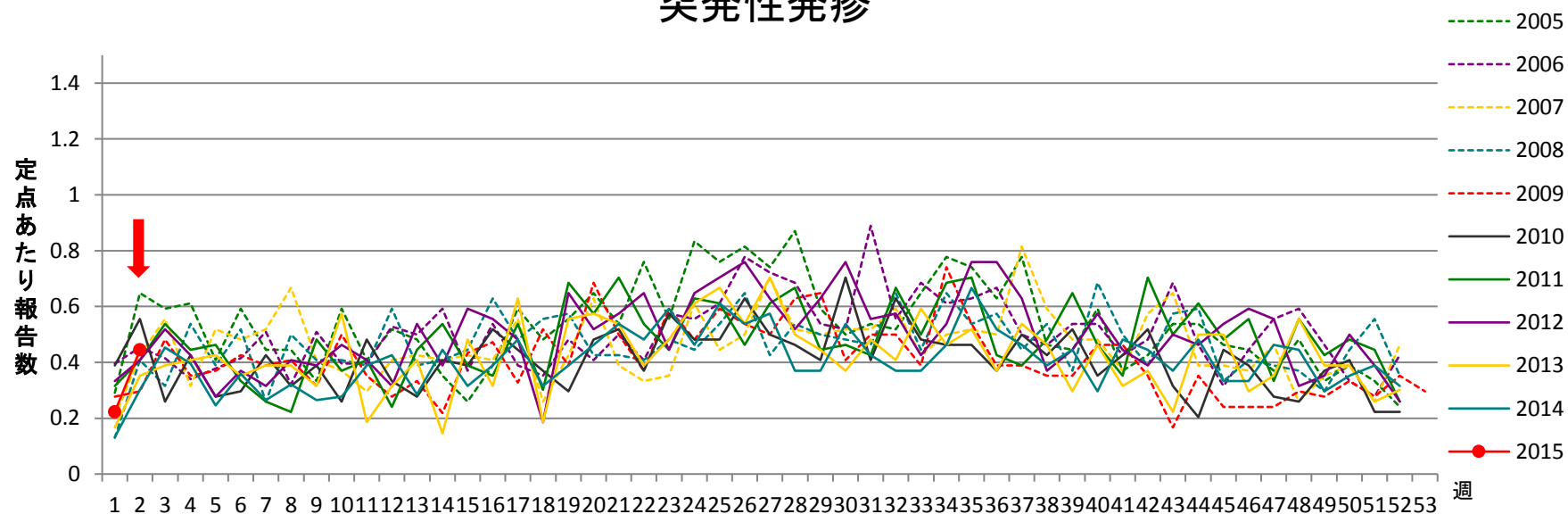
手足口病



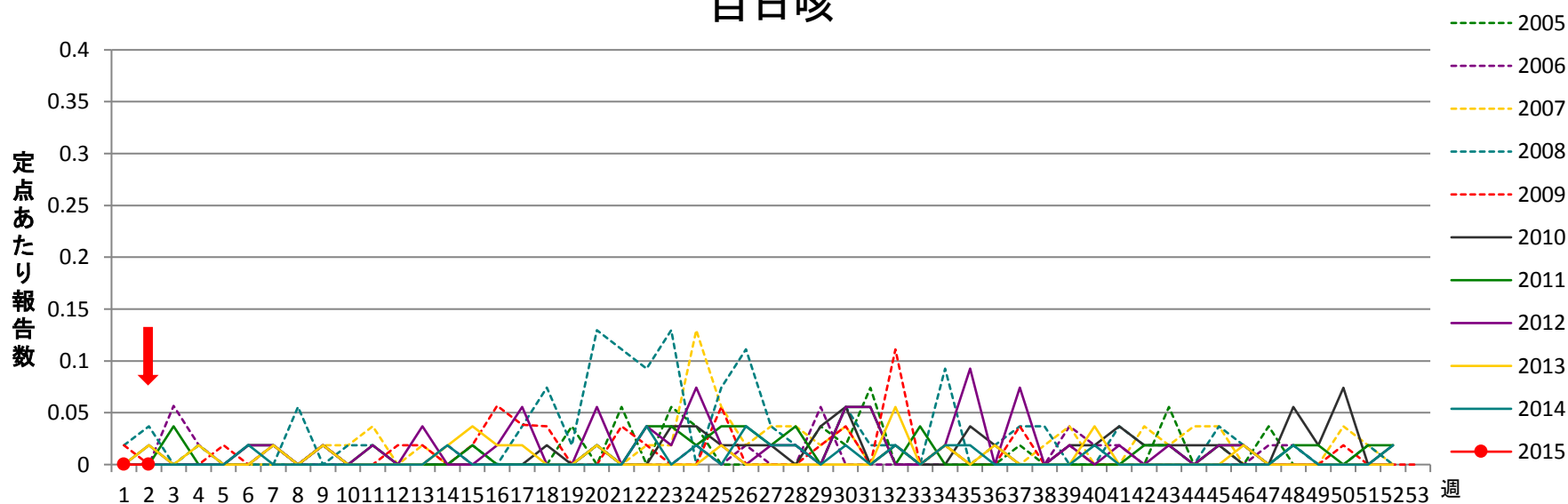
伝染性紅斑



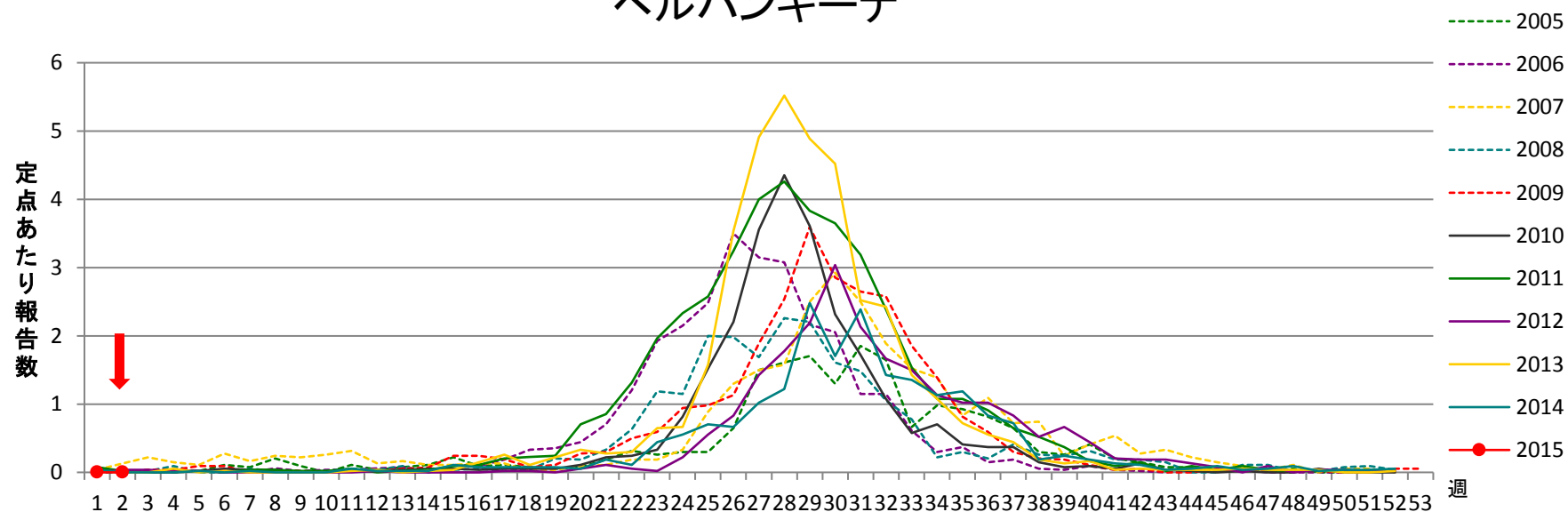
突発性発疹



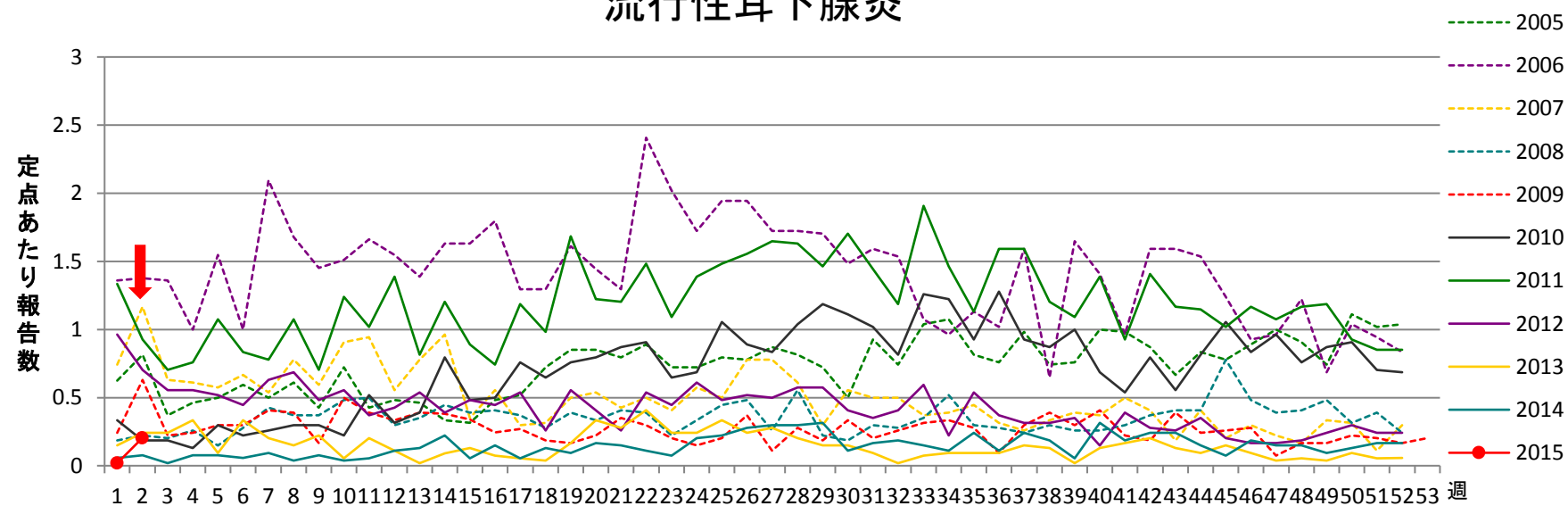
百日咳



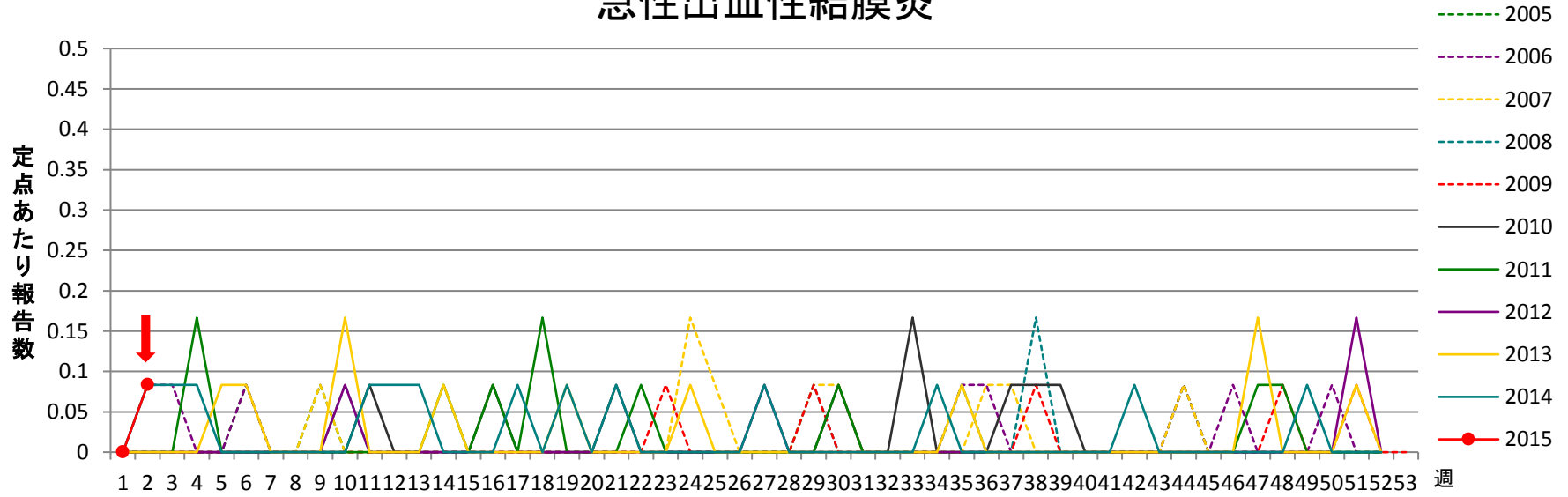
ヘルパンギーナ



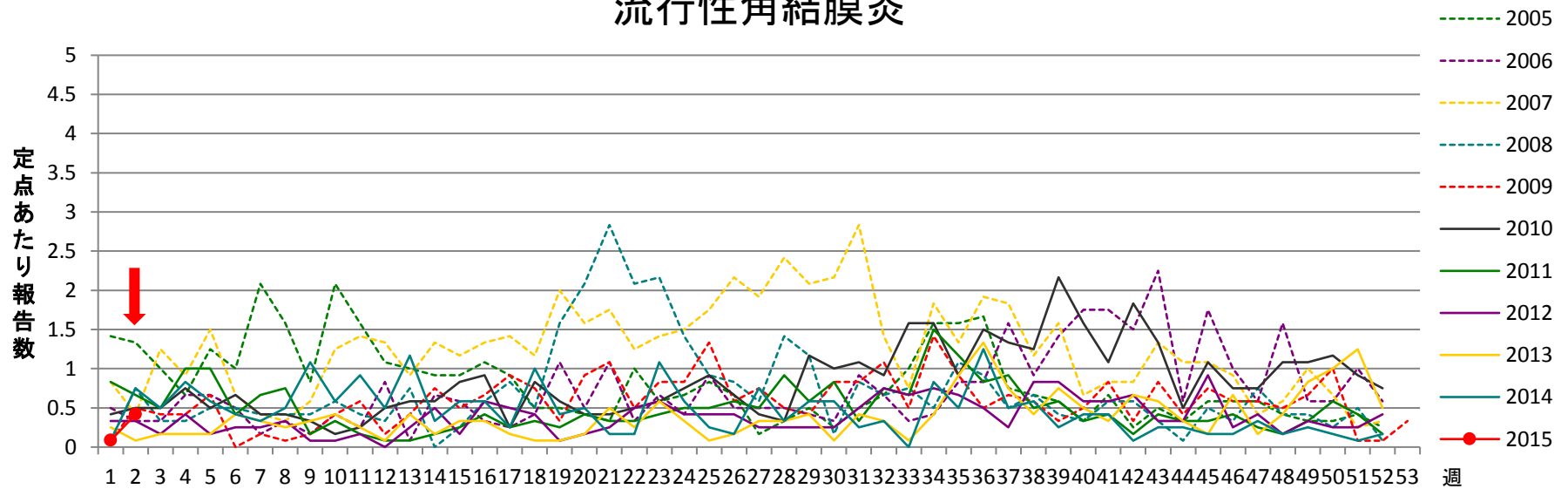
流行性耳下腺炎



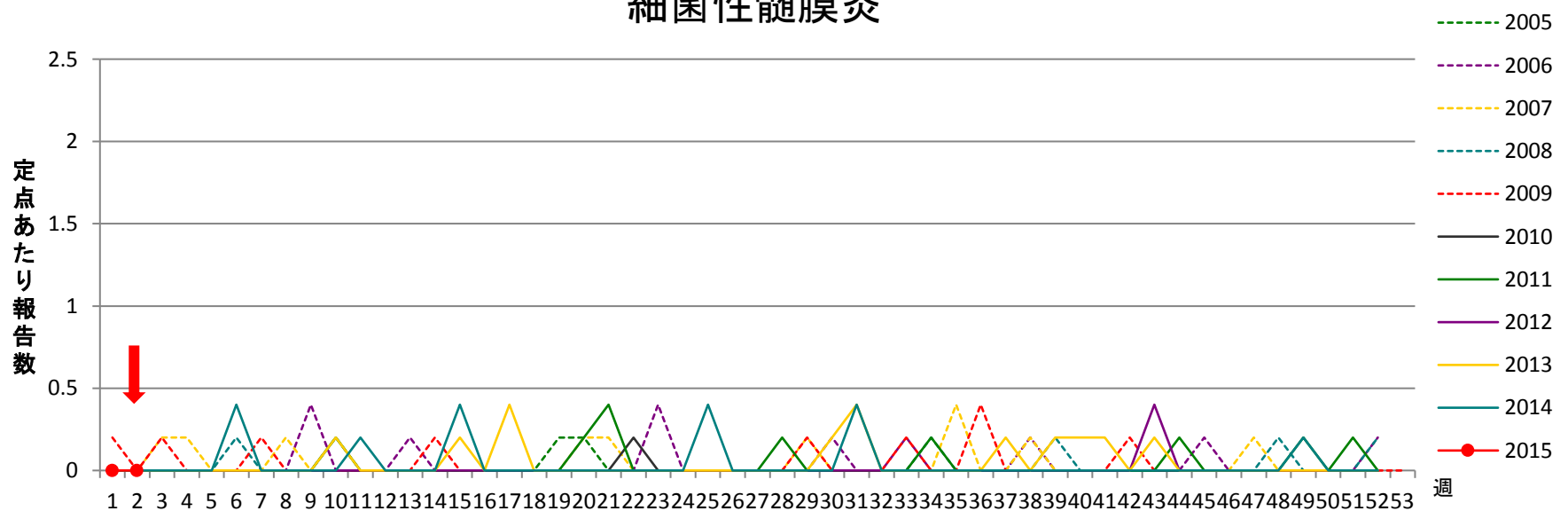
急性出血性結膜炎



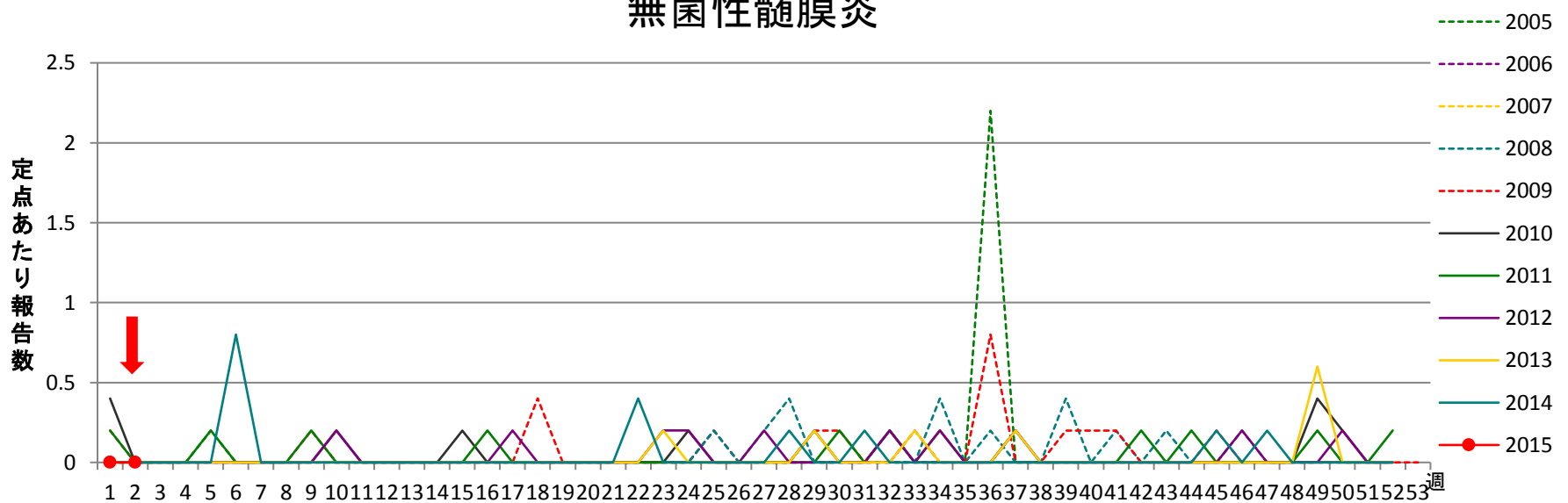
流行性角結膜炎



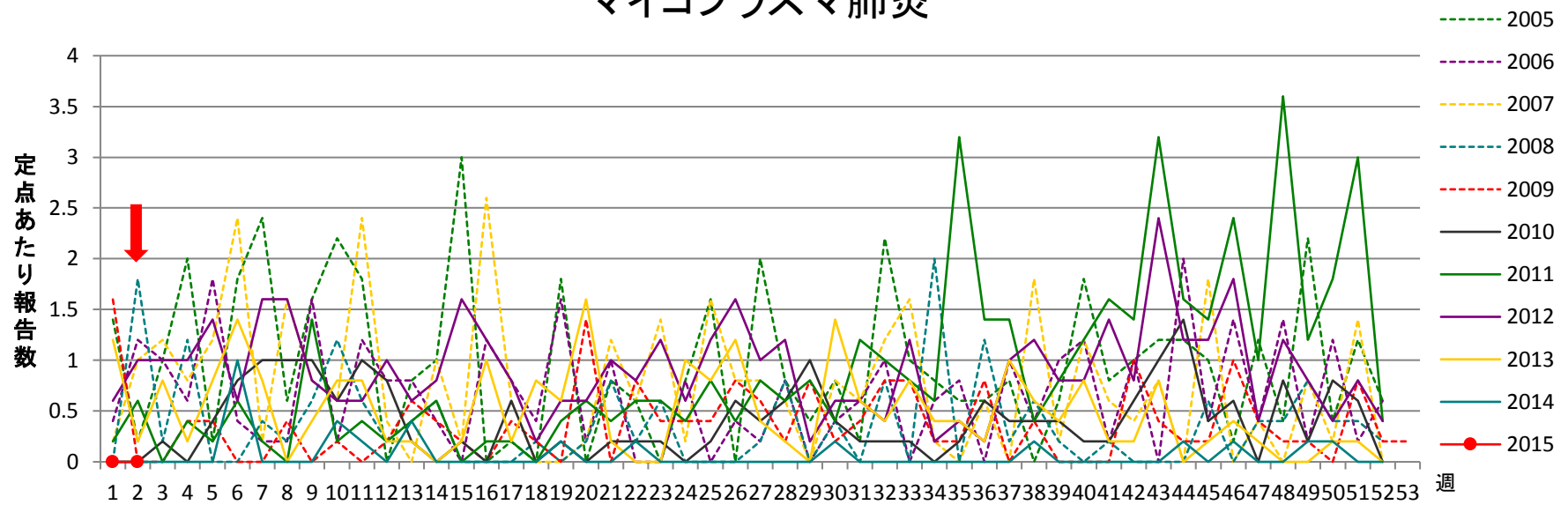
細菌性髄膜炎



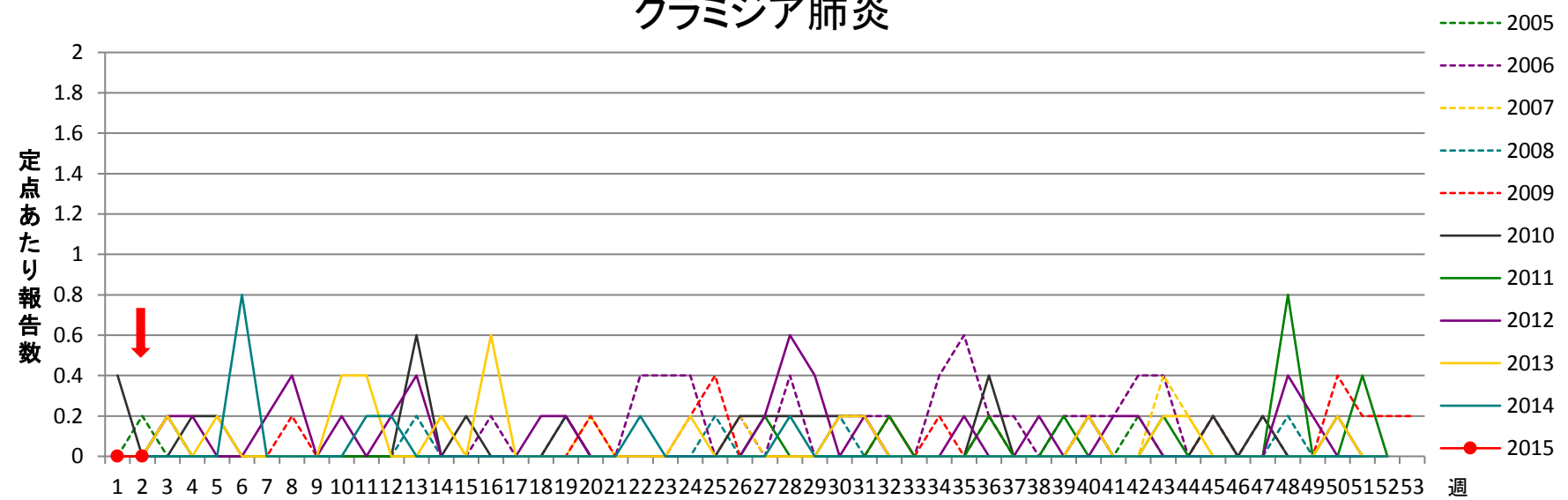
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

